

## 指定管理者評価シート

事業名	産業振興センター管理運営費	所管課(電話番号)	経済観光局産業振興部経済企画課(211-2352)
-----	---------------	-----------	---------------------------

### I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市産業振興センター	所在地	白石区東札幌5条1丁目
開設時期	平成14年4月	延床面積	7,634.32㎡
目的	中小企業者及び小規模企業者への支援、新たな企業及び価値の創出、企業活動を支える人材の育成、企業が生み出す付加価値の向上に資する連携の促進等を通じ、市内事業者の社会経済環境への適応及び市内産業の活性化を図る。		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 中小企業者及び小規模企業者への支援に関すること。</li> <li>② 新たな企業及び価値の創出に関すること。</li> <li>③ 企業活動を支える人材の育成に関すること。</li> <li>④ 企業が生み出す付加価値の向上に資する連携の促進に関すること。</li> <li>⑤ 産業に係る情報の収集及び提供に関すること。</li> <li>⑥ 企業の経営等の相談に関すること。</li> <li>⑦ センターの施設を使用に供すること。</li> <li>⑧ その他センターの設置目的を達成するために必要な事業</li> </ul>		
主要施設	産業振興棟(セミナールーム(4)、防音ルーム(2)、会議室、産業情報スクエア、面談室、入居スペース(29)、ハブ拠点)、技能訓練棟(セミナールーム(9)、会議室、理美容実習室、体育実習室)、駐車場		
2 指定管理者			
名称	(一財)さっぽろ産業振興財団(以下「財団」という。)		
指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日		
募集方法	非公募		
指定単位	施設数: 1施設 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	施設維持管理業務、施設の貸館業務(利用料金制度)、入居スペース運営業務、ハブ拠点運営業務、各種セミナー開催等		
3 評価単位	施設数: 1施設 複数施設を一括評価の場合、その理由:		

## II 令和6年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価								
1 業務の要求水準達成度											
(1)統括管理業務	<p>▽ 管理運営に係る基本方針の策定</p> <p>以下の基本方針を策定し、施設の管理運営を行った。</p> <p>① 市内企業の高付加価値化に向けて企業支援機能を強化し、地域経済の発展に貢献する。</p> <p>② 振興センターを拠点に、市内中小企業の付加価値向上に資する連携を促進し、企業の成長につなげ、「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」「第2次札幌市産業振興ビジョン」を達成する。</p> <p>▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績</p> <p>▼法令を順守し、平等利用の実現を徹底した。また、利用者へのサービスを高めるため、マニュアルの整備、職員への常日頃のOJT研修、年2回のアンケート調査を行い利用者のニーズを把握して対応した。</p> <p>▼札幌市の出資団体としての公益性に配慮し、複数の応募がある施設について厳正なるルールのもと予約抽選会を開催するなど、平等かつ公正中立な管理運営に努めた。</p> <p>▼産業の活性化につながる企業や市民の利用については、一般の利用よりも先に予約を受け付けるなど、条例の設置目的に沿った平等利用の確保を図った。</p> <p>▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進</p> <p>▼館内のデマンド監視機器を使って、刻々と変化する電気やガスの使用量を常時監視するとともに、日々の使用量をデータに記録し見える化を図るなどエネルギーの適切な管理を行った。</p> <p>▼電気、水道、ガス等の使用に当たっては、部分的な消灯の励行のほか、トイレの蛇口の水量制限及び感知センサーによる自動点灯、全女子トイレに音消し用の擬音装置を設置することによる節水、街路灯の自動点灯スケジュールを季節に合わせて設定するなど節約に努めた。</p> <p>▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)</p> <p>▼統括責任者は、振興センター全体に関する管理運営業務を統括することから、施設管理及び産業振興施策などについて幅広い知識と経験を持ち、また、札幌市及び当該施設入居者、関係団体等との連絡調整ができる能力が必要であるため、財団の部長職を配置した。</p> <p>▼OJTにより職員一人ひとりの状況に応じたきめ細やかな指導を実施し、日々の業務改善に結びつけたほか、財団内部研修を実施するとともに、自己申告・人事評価制度の導入により職員を適材適所に配置し、職員の可能性を最大限に引き出し、市民サービスの向上に努めた。</p> <p>▼事務分掌、指揮命令系統(組織図)、緊急連絡網(兼 非常配備連絡図)等を定めた。</p>	<p>効率的な施設管理を行いながら、当財団の持つ支援メニューを複合的に活用し、振興センターを「企業の付加価値向上」を実現する拠点として、施設の管理運営を行うことができた。</p> <p>アンケートの結果や、日々の窓口での対応を参考に、利用者満足度の高い(総合満足度:1回目89%、2回目90%の満足)施設運営を行った。</p> <p>優先予約制度により条例の設置目的に沿った施設利用を図ることができた。</p> <p>夏、冬ともに、市が積極的に取り組む節電・省エネ推進に対応した事業を実施するとともに、経費節減にも努めた。</p> <p>統括管理責任者の指示のもと職務代理人、施設のハード面の維持管理を行う施設管理責任者などと、お互いに連携しながら効果的な施設運営を行うことができた。</p> <p>OJTによる業務改善、内部研修等で職員の育成を継続的に行ってきたことで、高い利用者満足度につなげることができた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>施設管理を通して、札幌市産業振興センターの設置目的であり、「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」「第2次札幌市産業振興ビジョン」にも掲げる「企業の付加価値向上」に向け、市と緊密な連携のもと目的達成を意識した戦略的な施設運営が継続して行われた。</p> <p>また、アンケート等で寄せられた利用者からの要望に迅速かつ誠実に対応するとともに、内部研修や実践的なOJTによる持続的な運営体制の維持・強化に向けた取組に加え、入居者とのランチミーティングやSNSを活用した双方向的な情報発信により満足度の高い施設となるような工夫が施されており、総合満足度については昨年より上昇している。</p> <p>また、環境への配慮や経費削減に務めるほか、適切な業務委託や資金管理、防災訓練など、あらゆるリスクを想定した安全で透明性のある運営管理を行うことができています。</p>	A	B	C	D				
A	B	C	D								

## ▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

▼管理水準の維持向上に向けては、利用者のニーズを的確に把握するため年2回のアンケートを行い、その結果をフィードバックしサービスの向上を図った。

▼施設管理は、財団が、エレクトロニクスセンター(38年間)、産業振興センター(のべ約18年間)等の施設を長年管理運営してきた実績を活かして適切に業務を行った。

## ▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

▼第三者に対する委託業務については、業者選定を適切に行い、履行確認、監督の結果、適正に業務が行われた。

- ・清掃
- ・設備総合管理
- ・窓口案内
- ・缶、瓶、ペットボトル収集運搬
- ・一般廃棄物収集運搬
- ・古紙等収集運搬
- ・監視カメラ保守管理
- ・複合機保守管理
- ・ネットワーク保守
- ・除排雪
- ・施設予約管理システムサービス提供
- ・入退室管理システム運用サポート
- ・ホームページ保守・運用

## ▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回 (6月27日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稼働状況および事業計画書(管理事業・自主事業)の進捗状況について</li> <li>・Sapporo Business VILLAGE近況報告、Sapporo Business HUB 利用状況</li> <li>・その他、HUB及び産振スクエアの利活用に関する意見交換等</li> </ul>
第2回 (10月2日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稼働状況および事業計画書(管理事業・自主事業)の進捗状況について</li> <li>・Sapporo Business VILLAGE近況報告、Sapporo Business HUB 利用状況</li> <li>・その他、産振スクエアの展示に関する意見交換等</li> </ul>
第3回 (1月14日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画書(管理事業・自主事業)の進捗状況について</li> <li>・Sapporo Business VILLAGE近況報告、Sapporo Business HUB 利用状況</li> <li>・その他、屋外広場での展示など施設活用に関する意見交換等</li> </ul>
第4回 (3月17日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稼働状況および事業計画書(管理事業・自主事業)の進捗状況について</li> <li>・Sapporo Business VILLAGEおよびSapporo Business HUBの令和6年度総括</li> <li>・その他、施設の将来像に関する意見交換等</li> </ul>

ミーティング等を適宜行い情報共有するとともに、定例会議等で他施設の対応等について情報を入手し、改善点を抽出し業務に当たるなど、適切に管理運営をすることができた。

施設の警備、設備、夜間業務については、委託業者も指定管理者と同じ執務室内にて常に緊密な連携のもと緊急時にも迅速に対応するなど適切に業務を行った。

札幌市との運営協議会は年4回開催した。管理運営に関する問題点について協議を行い、改善策や施設の活用方法等について意見交換を行った。入居者との連絡調整について、勉強会・ランチミーティング・交流イベントなど入居企業が一同に会する機会を設けたほか、SNS等を利用した双方向的な情報発信により連絡調整を行い、施設の維持管理水準やサービスの向上に取り組むとともに、防災訓練等に向けた協力体制を構築した。近隣施設の札幌コンベンションセンター、ラソラ札幌及び北海道職業能力開発協会とは、毎

	<p>&lt;協議会メンバー&gt;</p> <p>■札幌市 経済企画課長、庶務係長、庶務係担当者、商業・経営支援課長、金融・経営支援担当係長、金融・経営支援担当係担当者、クリエイティブ産業担当係長、クリエイティブ産業担当係担当者 イノベーション推進課長、スタートアップ推進担当係長、スタートアップ推進担当係担当者 ■産業振興センター 総務企画部長、プロジェクト推進部長、総務企画課長、事業推進課長、クリエイティブ産業振興課長、プロジェクト推進課長 ■外部委員 中小企業庁 北海道よろず支援拠点 チーフコーディネーター</p> <p>▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)</p> <p>▼利用料金、金券、つり銭、その他自主事業等の現金の管理については、財団の取扱規定に基づき、収支に関する記録を行い、適切に資金管理をした。</p> <p>▽ 要望・苦情対応</p> <p>▼苦情が発生した場合、苦情は利用者からの貴重な提言と受け止め、対応マニュアルに基づき、誠意を持って対応した。</p> <p>▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)</p> <p>▼センターの利用者に対し、年2回の利用者アンケート調査を実施し、その結果は、館内入口の見やすい場所に掲示した。</p>	<p>月1回、定例会議を行い、施設利用に係る課題や対策について協議を行い情報共有に努めた。</p> <p>加えて、北海道立職業能力開発支援センターの指定管理者である北海道職業能力開発協会とは、指定管理者連絡会議を行っており、令和6年度は年2回会議を開催した。</p> <p>現金の管理に際しては複数の職員の目を通すなど、管理体制を徹底することで、重大な事故を起こすことなく、適正な管理を行うことができた。</p> <p>大きな苦情はなかったが、利用者からの要望やアンケート結果に記載されていた要望については、できる限り速やかに対応した。</p>													
<p>(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p>	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無などの安全衛生面を含む)</p> <p>▼札幌市が定める労働関係規程に準じて、就業規程、給与規程、退職手当支給規程、再雇用に関する規程等を整備するとともに、公益通報者保護規程を整備することで、団体の自浄作用を高め、コンプライアンス(法令遵守)経営による社会的な信頼を確保している。</p> <p>また、休暇等の諸制度に関しては、札幌市に準じた取組を実施しており、職員の働きやすい環境整備を進めている。特に子どもを生み育てやすい環境づくりの実現のため、育児休業等の取扱いに関する要綱を制定し、短時間勤務や育児休業取得を可能にするなど、ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組んでおり、札幌市よりワーク・ライフ・バランスplus企業として認証されている。</p> <p>また、効率的な業務遂行が可能となるよう、各拠点(産業振興センター、中小企業支援センター、エレクトロニクスセンター)に設置しているどの端末からでも、各職員が業務用データにアクセスできるよう、ネットワークを整備している。</p> <p>なお、第三者委託により実施している業務については、全件、札幌市の登録業者と契約を締結しており、毎年札幌市で実施している指定管理業務における労働関係法令の遵守及び雇用環境調査では、</p>	<p>労働関係法令に基づく就業規則その他の必要な規定などを整備し、必要な届出を監督官庁に行うなど、雇用環境の維持向上に努めた。また、当財団は、職員の多様な価値観や働き方を尊重し、各個人がその能力を最大限発揮できるよう、適切な職務と働きがいのある職場環境を整備している。</p>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td colspan="4">労働関係規程を整備し、コンプライアンスの徹底を図るとともに、短時間勤務や育児休業取得を可能にするなどワークライフバランスの推進に質する休暇制度等を積極的に取り入れている。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">また、財団の各拠点のどの端末からでも、各職員が業務用データにアクセスできるネットワークを構築し、効率的な業務遂行を可能とする環境整備を行うなど、職員の働きやすい環境作りに努め、継続して労働及び雇用環境</td> </tr> </table>	A	B	C	D	労働関係規程を整備し、コンプライアンスの徹底を図るとともに、短時間勤務や育児休業取得を可能にするなどワークライフバランスの推進に質する休暇制度等を積極的に取り入れている。				また、財団の各拠点のどの端末からでも、各職員が業務用データにアクセスできるネットワークを構築し、効率的な業務遂行を可能とする環境整備を行うなど、職員の働きやすい環境作りに努め、継続して労働及び雇用環境			
A	B	C	D												
労働関係規程を整備し、コンプライアンスの徹底を図るとともに、短時間勤務や育児休業取得を可能にするなどワークライフバランスの推進に質する休暇制度等を積極的に取り入れている。															
また、財団の各拠点のどの端末からでも、各職員が業務用データにアクセスできるネットワークを構築し、効率的な業務遂行を可能とする環境整備を行うなど、職員の働きやすい環境作りに努め、継続して労働及び雇用環境															

	受託者から情報を収集しているところである。		の向上に取り組んでいる。												
(3)施設・設備等の維持管理業務	<p>▽ 総合的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> <p>▼施設・設備等の維持管理業務の実施に当たっては、関係法令等を順守し、適切に運用した。</p> <p>▼職員及び警備員による巡回と併せて、カメラによる監視も行い、利用者の安全を確保した。</p> <p>▼有事があった場合に備え、緊急時連絡体制を整備した。</p> <p>▼損害賠償保険は仕様に適合したものに加入した。</p> <p>▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)</p> <p>▼清掃業務 衛生的で快適な環境を保つため、日常清掃、計画清掃及び廃棄物収集処理等を行った。清掃委託業者による清掃だけでなく、警備員による巡回の際のゴミ回収等を適宜実施した。紙、缶・瓶・ペットボトル及び紙くずは、リサイクル率を高めるよう環境に配慮した取組を行った。また、地域住民と協力したボランティアによる清掃活動なども実施した。</p> <p>▼警備業務 入退室、鍵の管理、巡回警備、機械警備、駐車場整理、防犯、保安等を通じ、事件・事故・災害の未然防止と施設の安全確保に努めた。また、所定の制服を常時着用し、胸部に名札をつけ、入居団体や利用者に安心安全を提供できるよう心がけた。</p> <p>▼設備保守点検業務 利用者に安心、安全に施設を利用してもらうため、法定点検、日常点検、定期検査及び設備診断等、適切な予防保全を行った。 インターネット利用サービスについては、信頼のおける専用線での提供を行うとともに、ファイアウォールやウイルス対策を講じ外部からの不正アクセスを制御したほか、セグメント間でのアクセスを制限することで利用者間のセキュリティを確保した。</p> <p>▼修繕業務 機器の破損や故障の恐れがあるときは、安全を確保するとともに速やかに応急処置を施し、直ちに札幌市に報告、協議の上、迅速かつ効率的に修繕を行った。内容として、駐車場精算機の修繕、体育実習室煙感知器交換、体育実習室カビ対応等を実施した。</p> <p>▼備品管理 利用者が備品の使用に際して支障が生じることのないよう、常に保守点検を行うとともに、不具合の生じた備品については、速やかに修繕及び更新を行った。</p> <p>▼駐車場管理業務 利用者が安全、円滑に駐車できるよう車両を監視し、必要に応じて、コンベンションセンターとの相互利用の周知を図った。</p>	<p>施設管理の経験が豊富な職員を施設管理責任者として配置し、日常の点検を行うとともに事故があった場合は迅速に対応した。</p> <p>施設の維持管理においては、関係法令を順守し、委託先業者に任せるだけではなく、財団の施設管理責任者が日常的に委託先と業務用の無線機で連絡を取りながら清掃、警備、施設設備運転管理、保守点検を行わせるなど、業務仕様書で求められている事項を適切に実施した。 各セミナールームにおいて、利用に支障がないように老朽化した備品の更新を行うとともに、適切なインターネット接続環境の維持管理を行い、利用者のセキュリティを確保した。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">産業振興センターは、竣工から23年が経過し、徐々に修繕箇所が増えている状況にあるが、関係法令を順守し、委託先業者に任せるだけでなく、施設管理責任者による日常的な点検や、本市及び修繕・警備業務の委託先へのこまめな報告・連絡・相談により、迅速かつ効率的な維持管理を行い、利用者が安心できる安全な施設運営が実現されている。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">備品管理については、本市と協議の上、老朽化した備品や利用者のニーズに応じた備品の調達を行い、利用者目線に立った、利用者満足度の向上につながる取組を行うほか、インターネット利用にあたり、適切なセキュリティを確保するなど適切に対応している。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	産業振興センターは、竣工から23年が経過し、徐々に修繕箇所が増えている状況にあるが、関係法令を順守し、委託先業者に任せるだけでなく、施設管理責任者による日常的な点検や、本市及び修繕・警備業務の委託先へのこまめな報告・連絡・相談により、迅速かつ効率的な維持管理を行い、利用者が安心できる安全な施設運営が実現されている。				備品管理については、本市と協議の上、老朽化した備品や利用者のニーズに応じた備品の調達を行い、利用者目線に立った、利用者満足度の向上につながる取組を行うほか、インターネット利用にあたり、適切なセキュリティを確保するなど適切に対応している。			
A	B	C	D												
産業振興センターは、竣工から23年が経過し、徐々に修繕箇所が増えている状況にあるが、関係法令を順守し、委託先業者に任せるだけでなく、施設管理責任者による日常的な点検や、本市及び修繕・警備業務の委託先へのこまめな報告・連絡・相談により、迅速かつ効率的な維持管理を行い、利用者が安心できる安全な施設運営が実現されている。															
備品管理については、本市と協議の上、老朽化した備品や利用者のニーズに応じた備品の調達を行い、利用者目線に立った、利用者満足度の向上につながる取組を行うほか、インターネット利用にあたり、適切なセキュリティを確保するなど適切に対応している。															

	<p>▼外構緑地管理業務 敷地内の植木については、利用者や近隣住民への配慮から、美観の保持、剪定、除草、病害虫の防除等、適切な維持管理を行った。</p> <p>▼除排雪業務 終業時間前に駐車場内及び出入口付近に10cm以上の積雪又は吹き溜まりが生じた場合に除排雪を実施した。</p> <p>▽ 防災</p> <p>▼消防法の規定に基づき、消防用設備の点検を行うとともに、災害時には、自動販売機の飲料水を無料提供できるライフラインベンダーとするなど、必要な機材を常備した。</p> <p>▼災害発生時には札幌市の地域避難所として財団内部における災害対策本部を速やかに設置できるよう緊急連絡体制を整えらるとともに関係規定を整備した。</p> <p>▼災害時に備え、入居者等に館内の避難経路や防災体制等に関する情報提供を行い、防災意識の向上につなげた。</p>	<p>利用者や入居団体、財団職員等の安全を確保するため、防災計画・消防計画を策定。これに伴い、北海道職業能力開発協会と共同して自衛消防隊を編成し、消防訓練を2回実施した。</p>									
(4)事業の計画・実施業務	<p>▽ 入居スペース運営業務</p> <p>(ア) 支援チームによる支援 3年間の入居期間において、事業化の達成や経営の安定化に繋げるためには、当財団の支援体制を再構築する必要がある。入居者への支援は、日常的なコミュニケーションのもと、深い信頼関係を構築しながら支援することが必須であることから、令和5年度から新たな外部人材の登用などにより、その体制を強化している。</p> <p>これに加えて、財団各拠点の強みを生かしながら広く市内企業の高付加価値化を目指す「財団支援チーム」を別途組成し、両者が連携しながら入居企業への支援を総合的かつ集中的に行った。</p> <p>【令和6年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期ヒアリングでの情報提供、相談対応</li> <li>・IM、担当職員による定期的な企業訪問</li> <li>・法人登記申請、銀行口座の開設、創業融資に係る支援</li> <li>・入居企業の支援方針の策定ときめ細かな助言、指導</li> <li>・入居企業の事業計画書のブラッシュアップ</li> <li>・入居企業と市内地場企業とのマッチング</li> <li>・入居企業の事業ピッチイベントの開催</li> <li>・入居企業の事業紹介セミナーの開催</li> <li>・大学との製品共同開発の支援</li> <li>・各支援団体の補助金情報の提供、訪問随行</li> <li>・外国人就業者のビザ取得支援</li> <li>・VC、CVCからの資金調達支援</li> <li>・北大キャリアセンターを通じた人材確保支援</li> <li>・外部人材の登用などによる支援体制の強化</li> <li>・財団支援チームや関係支援機関との連携など効果的な支援メニューの提供</li> <li>・入居者間のネットワークづくりのための交流会、勉強会、ランチ会などの開催</li> </ul>	<p>財団が有する、IT、クリエイティブ、ものづくり、食、販路拡大、国際展開など幅広い分野でのノウハウや、人事・労務・経営支援など企業に共通して欠かさない分野での外部専門家とそのネットワークなど財団各拠点の強みを最大限に活用し、支援業務を行った。</p> <p>入居企業への支援をより効果的なものにするため入居スペース支援チームを構成員とする「方針会議」を設置し、入居企業の強みや課題を適宜共有した上で、入居企業に対する支援方針を組織的に決定した。さらに、財団支援チームを含めた「支援会議」を12回開催し、財団の幅広い機能やネットワークを活用した支援メニューの提供も積極的に検討した。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> <p>本事業の実施の結果、年間入居率が91.7%と高水準かつ前年よりも4%上昇するなど、財団の幅広い機能やネットワークがうまく活用されていると評価する。</p> <p>また、定期ヒアリングを通じて入居企業の課題やニーズを把握し、個々に応じたきめ細やかな支援を実施しており、入居企業の成長促進に資するものと評価する。</p> <p>入居企業と市内地場企業とのマッチングにより、市内の産業振興に繋がる役割にも期待する。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	<p>本事業の実施の結果、年間入居率が91.7%と高水準かつ前年よりも4%上昇するなど、財団の幅広い機能やネットワークがうまく活用されていると評価する。</p> <p>また、定期ヒアリングを通じて入居企業の課題やニーズを把握し、個々に応じたきめ細やかな支援を実施しており、入居企業の成長促進に資するものと評価する。</p> <p>入居企業と市内地場企業とのマッチングにより、市内の産業振興に繋がる役割にも期待する。</p>			
A	B	C	D								
<p>本事業の実施の結果、年間入居率が91.7%と高水準かつ前年よりも4%上昇するなど、財団の幅広い機能やネットワークがうまく活用されていると評価する。</p> <p>また、定期ヒアリングを通じて入居企業の課題やニーズを把握し、個々に応じたきめ細やかな支援を実施しており、入居企業の成長促進に資するものと評価する。</p> <p>入居企業と市内地場企業とのマッチングにより、市内の産業振興に繋がる役割にも期待する。</p>											

## (イ) 支援状況ファイルの作成

入居企業ごとに一つの記録フォーマットを用意し、相談内容、支援実績、成果等の支援内容を時系列に記録。併せて、札幌市からの求めに応じて、毎年度終了後及び常に報告ができるよう管理体制を整えた。

## (ウ) 入居者退去時の支援レビューの実施

入居者退去時には入居中に実施した支援内容及びその効果について、特命IMを中心に入居者の財務情報なども用いて、可能な限り定量的な総括を行う(以下「支援レビュー」という。)。これにより、以後の入居者支援の強化につながるノウハウを蓄積するとともに、このノウハウに基づき入居者の支援メニューの再構築も随時行っていく。

なお、この支援レビューの内容については、必要に応じて財団支援チームにもフィードバックし、今後の財団の支援の高度化に向け活用を検討した。

## (エ) 退去者とのネットワーク維持

入居スペースを卒業した企業に対しては、補助金等の情報提供を行い、ネットワークが途切れないように留意するとともに、必要に応じて財団支援チームと経営状況を共有しながら、有効な支援メニューを積極的に提案していく。なお、施設卒業企業に関する支援状況等については、企業ごとの支援状況ファイルに継続して記録し、厳重に保管。

## (オ) 入居企業の発掘

各業界や関係団体等とのネットワークを生かし、日頃の訪問活動や中小企業支援センターでの相談対応、市内コワーキングスペースの巡回活動などを通じて、有望な入居企業に関する情報を能動的に収集。

入居企業に関しては、単に創業後間もない企業の発掘に留まらず、市外から札幌市への事務所移転の意向がある企業の積極的な誘致活動を札幌市東京事務所などと連携して実施し、札幌市の産業を支える企業等の増加を図った。

## ▽ ハブ拠点運營業務

## (ア) ハブ拠点の利用者を増やす取組

利用する人が付加価値の向上及びこれに繋がる連携への意識を高めることができるよう、セミナーや企画展示を活用した好事例の発信やイベントの開催を継続的に実施した。また、交流会や勉強会などを定期的に開催し、参加者が多くの人と接点を持ち、連携のチャンスを得られるよう機会創出を図った。

## (イ) 企業の付加価値向上に資する連携のための取組の実施

企業に対して自らの付加価値向上に資する連携を促す取組として、連携先の候補になり得る事業者に対して自社をアピールすることができる事業ピッチを実施したほか、勉強会や交流会、先進的な連携事例を紹介するイベント等を開催した。特に事業ピッチや交流会の開催にあたっては、入居スペースの入居者の参加を推進した。

また、他の支援機関等との連携を密にして、大学等の研究シーズに関する情報を収集するとともに、専門家と市内の事業者を結びつける情報交換会・相談会を開催するなどして、企業の付加価値向上を図った。

入居企業ごとに概況・今後の方向性、課題等について記録した相談カルテを作成するとともに、入居者退去時に支援レビューを実施した。

卒業企業へ各支援メニューの情報提供や入居者交流及びセミナー等の案内を適宜行い、ネットワークの維持に努めた。

また、北海道大学産学・地域協働推進機構や、独立行政法人中小企業基盤整備機構を通じたスタートアップ企業の発掘、「Sapporo Business VILLAGE 起業家ピッチ」による入居企業及び施設のPRを行い、令和6年度は入居率91.7%を達成した。

施設利用者や近隣の札幌コンベンションセンター等を訪れる利用者の属性を把握したうえで、利用者の属性に合わせたイベント、相談会、企画展示等を企画・立案した。令和6年度の実績として、合計106回のイベントを実施し、延べ2,780名の集客を集めることができた。

イベントや交流会、情報交換会など様々な連携のチャンスとなるような機会を設けており、集客も得ている。今後もIMなどの専門家や財団職員などが利用者の相談に応じ、付加価値の向上や様々な連携の場となることを期待する。

さらに、課題解決や連携のパートナーや連携相手を広く募ることができるよう、事業者が自身の企業課題やニーズを掲示することができる掲示板を設置した。

(ウ) オープンスペースとしての場所の提供

利用者が自由に使えるディスプレイやホワイトボード、プロジェクタ等を設置して、開かれた雰囲気の中で議論や相談が行われる環境を整備した。加えて、充電器など備品の貸し出しや個室のワークブース「ワークボッド」を設置し、付近で働く人、ワーケーションによる利用者等の利便性を高めた。

また、これからの札幌市の産業を担う人たちが起業に向けた体制を整えるため、IMなどの専門家などによる相談会を実施したほか、市内のワーキングスペースと連携し、日常的にワークスペースを積極的に利用する層にリーチし、より多くの連携が生まれるようワーキングスペースとしての利用の活性化を図った。

(エ) 利用者への相談対応

上述の財団支援チームや財団コーディネーターが利用者への相談対応を行い、記録作成のうえ、利用者へのニーズ等に応じて財団支援チームによる支援につなげるほか、場合によっては、財団が保有するネットワークを活用して支援を行う体制を整えた。

(オ) 企業支援に関する総合的な情報収集・発信・アーカイブ

利用者への適切な相談対応を行うため、財団の総合的な支援メニューの一覧パンフレットを作成したほか、他の支援機関での事業についても広く情報収集し、利用者に対して総合的な情報提供を行った。また、収集した支援情報については、「さっぽろ産業ポータル」を活用して広く情報提供したほか、ハブ拠点で掲示などを行った。

(カ) 企業、行政、業界団体、支援機関等とのネットワーク構築

利用者への適切な相談対応及び総合的な情報収集・発信・アーカイブのためには、他団体とのネットワークが欠かせないことから、これらの団体との情報共有を定期的に行い、適宜企業支援に活用した。

また、他の機関との連携を密にして、大学等の研究シーズに関する情報を収集するとともに、専門家と市内の事業者を結びつける情報交換会などを開催し、企業の付加価値向上を図った。

これに加えて、財団がこれまで培ってきた「食」「ものづくり」「IT」「クリエイティブ」の各分野で構築してきたバイヤー、専門家、業界団体、クリエイター等との関係をこれまで以上に深化させるべく、定期的にミーティングの機会を設けるとともに、誰もがこれらのネットワークにアクセスし、自らの付加価値を高め、また、販路を切り開くチャンスを得られるよう支援。特にクリエイティブ分野においては、自主事業とも連動させながらデザイン経営の浸透を図り、デザインの活用を推し進め、市内事業者の付加価値向上を図った。

利用者の仕事の効率化や開かれた雰囲気の中で議論や交流が行われるよう環境の整備を適宜行った。

令和6年度の実績として、オープンスペースの新規登録者数が270名、利用者数が2,460名となり、多くの利用者を集めることができた。

利用者を対象にした相談会「フリーデスク相談」を開催したほか、ビジネスに関心のある学生の利用を促進するとともに、市内のワーキングスペースとの連携した共同プログラムなどの実施及び新たな利用者層の開拓に努めた。

他の支援機関や業界団体等による支援情報を集めるとともに、市内中小企業の課題やニーズを吸い上げることで、当施設が事業者のビジネス活動に役立つ情報の集積・発信拠点となり、ビジネスに携わるすべての人にとって利便性の高い施設となるよう運用を行った。

(5)施設利用に関する業務	▽ 利用件数等				A	B	C	D
		R5年度実績	R6年度計画	R6年度実績				
セミナールームA(150名)	件数(件)	323	288	285	令和6年度の稼働実績については、70%以上あったコロナ禍以前の稼働率には戻っていない。回復しない原因としては、コロナ禍でオンラインセミナーが普及したことが要因と考えられるが、加えて、稼働率の低い貸室(防音ルーム)が令和4年度後期から増えたことがある。これについては、利用のPRを強化しているところである。 一方、利用者ニーズに応えるため、セミナールームの備品更新を適宜行ったほか、不具合が発生した際には、速やかに緊急修繕を実施した。 今後は、目標稼働率達成に向け、既存の利用者だけでなく、新規利用者を発掘するためのDM送付、SNSによる情報発信、広告媒体等による営業活動を強化し、様々な手法を用いて利用促進を図るとともに施設の設置目的に沿った利用促進にも努めていく。	貸室稼働率から、現状、ある程度の利用は見られるものの、利用者の需要の変化が影響し、依然として以前の水準まで回復していない状況が続いているため、利用者のニーズを的確に捉え、引き続き効果的な広報活動に注力されることを期待する。 ただし、貸室を運営する以上は、全体として高い稼働率を目指す必要はあるものの、一方で、本施設設置の政策的目標を意識した運営が求められ、短期的な稼働率の向上のみを目指した利用促進ではなく、中長期的な視点で産業振興の発展を見据えて運用されたい。		
	人数(人)	35,887		34,706				
	稼働率(%)	89.7%	80.0%	79.4%				
セミナールームB～C(42名)	件数(件)	532	576	472				
	人数(人)	16,966		15,183				
	稼働率(%)	73.9%	80.0%	65.7%				
セミナールームD(36名)	件数(件)	272	288	214				
	人数(人)	6,923		5,570				
	稼働率(%)	75.6%	80.0%	59.6%				
防音ルームA・B	件数(件)	144	576	182				
	人数(人)	1,238		1,455				
	稼働率(%)	20.0%	80.0%	25.3%				
セミナールーム1(90名)	件数(件)	242	288	277				
	人数(人)	15,476		17,217				
	稼働率(%)	67.2%	80.0%	77.2%				
セミナールーム2～3(40名)	件数(件)	431	576	458				
	人数(人)	12,982		12,630				
	稼働率(%)	59.9%	80.0%	63.8%				
セミナールーム4～8(20名)	件数(件)	973	1,440	1,236				
	人数(人)	13,893		16,646				
	稼働率(%)	54.1%	80.0%	68.9%				
セミナールーム9(42名)	件数(件)	166	288	200				
	人数(人)	4,653		5,356				
	稼働率(%)	46.1%	80.0%	55.7%				
会議室(14名)	件数(件)	233	288	199				
	人数(人)	2,585		1,490				
	稼働率(%)	61.9%	80.0%	55.4%				
実習室	件数(件)	42	288	55				
	人数(人)	483		577				
	稼働率(%)	11.7%	80.0%	15.3%				
体育実習室	件数(件)	360	359	355				
	人数(人)	47,749		38,704				
	稼働率(%)	100.0%	100.0%	98.9%				
合計	件数(件)	3,708	5,255	3,933				
	人数(人)	157,597		149,534				
	稼働率(%)	63.3%	81.3%	60.9%				
▽ 不承認 0件、取消し151件、減免433件、還付9件								
▽ 利用促進の取組								
▼受付カウンターへ寄せられる要望等のほか、利用者アンケートなどで施設の満足度やニーズを調査することにより、定期的にサービスメニューの見直しを行い、さらなる利用の促進や利用者の満足度の向上に努めた。								

(6)付随業務	<p>▽ 広報業務</p> <p>▼セミナールーム、ハブ拠点、入居スペースの情報を記したリーフレット利用案内リーフレットを作成し、情報発信スペースに配架するとともに、関係支援機関や企業にも配布した。また、企業訪問等の際にも配布し、施設利用の呼びかけを行った。加えて、近隣市町村にもリーフレットを配付し、札幌市外の関係者にもセンターの利用を呼びかけ利用促進を図った。</p> <p>▼セミナールームやハブ拠点、入居スペースの情報を掲載する。facebookやTwitter等のSNS、YouTube等も活用して、セミナールームの貸出案内や入居スペースの入居情報、ハブ拠点におけるイベント情報等を広く発信し、セミナールームの稼働率向上や入居スペースの空き室軽減、ハブ拠点の利用促進につなげた。</p> <p>ホームページは、札幌市の施策や市内経済団体、金融機関、各支援機関の情報はじめ、産業振興に係る情報が豊富である財団で運用している産業ポータルサイトと振興センターのホームページをリンクさせ、一体的な運営を行うことで、閲覧者の確保につなげた。</p> <p>▼産業振興センターのホームページは日本工業規格に基づくウェブアクセシビリティの適合レベルに準拠させている。今後もウェブアクセシビリティのさらなる向上に努める。</p> <p>▽ 引継ぎ業務 令和6年度においては引継業務なし</p>	<p>リーフレットについては、イベント、セミナーの開催時に配布するとともに、企業訪問時や企業へのDMを活用するなど、効果的な配布を行い、利用促進に結び付けた。</p> <p>産業振興センターのホームページについて、日本工業規格の適合レベルに準拠する形で運用を行い、より見やすく利用しやすいホームページとすることができた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ホームページの活用のみならず、イベントやセミナーの際にリーフレットを配布するなど、効果的に周知活動を行っている。</p> <p>また、facebookやX等のSNS、YouTube等、多様な媒体による、幅広い属性の潜在的利用者へのアプローチは評価でき、時代の変化にも対応しながら、今後も引き続き取り組まれることを期待する。</p>	A	B	C	D				
A	B	C	D								
2 自主事業その他											
<p>▽ 自主事業</p> <p>▼人材育成に関するセミナーの実施</p> <p>市内中小企業等の人材の育成や確保、経営課題の解決、新たな分野・テーマにチャレンジするための研修プログラムを実施。令和6年度は、「人材育成セミナー(階層別研修)」「経営課題解決セミナー(テーマ別研修)」「創業者セミナー」の3つの柱を中心に、計62回のセミナーを開催した。</p> <p>ア 人材育成セミナー(階層別研修)</p> <p>企業活動の源となる人材の確保と育成を目的に、内定者向け、新入社員向け、若手社員向け、中堅社員向け、リーダー・管理職向け、経営層向けといった階層ごとのスキルアップセミナーを18回開催した。延べ233名が参加し、企業従事者のスキルアップを図った。</p>	<p>人材育成セミナーでは、企業の人材確保と人材育成を目的に、企業の各階層ごとのセミナーを開催。セミナーを通じて、市内中小企業等における従事者のスキルアップを図ることができた。また、セミナーにおいては、グループワーク中心のカリキュラムとし、参加者同士の交流や異業種連携を促した。</p> <p>6年度で2年目となる「経営実践アカデミー」は、札幌を代表する6名の経営者を講師に起用し、経営者の体験談を交えながら経営の極意を解説するものであるが、市内の経営者の経営マインドを十分に高めるものになった。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>自主事業については、承認内容と同一の事業の実施を確認した。</p> <p>具体的な評価内容は以下のとおり。</p> <p>経営の中心である人材育成セミナーを始め、経営課題解決セミナーや創業セミナーなどそれぞれのニーズに合ったテーマ別のセミナーを開催し、企業の総合的な経営力強化に努めた。また社会情勢の変化に沿った新たなセミナーの企画にも努めている。</p> <p>一方で、受講率が約5割となり、自主事業収入が十分とは言えないが、創業関連セミナーの受講率</p>	A	B	C	D					
A	B	C	D								

### イ 経営課題解決セミナー(テーマ別研修)

市内企業が直面している多様な経営課題等を把握し、その解決につながるセミナーを開催した。セミナーの実施にあたっては、財団の各部署と連携し、企業におけるデジタル化や映像・WEB・SNS活用、法改正への対応等をテーマとするセミナーを22回開催した。延べ500名が参加し、セミナーを通じて、企業の経営力強化を図った。

このほか、中小企業の人材確保や労働法のワンポイントや法改正への対応などをテーマとする「はたサポオンラインセミナー」を24回実施した(視聴回数は7,087回再生)。

### ウ 創業セミナー

「創業前段階向けセミナー(起業志望者向け講座、創業塾)」「創業段階向けセミナー(起業道場、ソーシャルビジネススクールほか)」「創業後段階向けセミナー(創業者フォローアップ講座)」のフェーズに分け、創業のあらゆるステージに対応するきめ細かな講座を22回開催した、延べ366名が参加し、創業機運の醸成及び創業の促進を図った。

### ▼デザイン経営の導入に関する業務

#### ア デザインマッチングの開催

市内中小企業の商品・サービスの付加価値向上や経営上の課題解決を目指し、企業とクリエイターやデザイナーをマッチングする事業として、デザインマッチングイベント『KYOSOグループワーク&ビジネスマッチング』を実施した。

本イベントでは、マッチングにおいて、市内のデザイナー等と市内企業が、共に対話を重ねることが相互理解を深める第1歩であると考え、共創機会ワークショップの体験及び交流会の機会を経た後にマッチングイベントを実施した。

#### (ア)KYOSOグループワーク及び交流会

グループワークでは、テーマを「妄想から描く30年後のあるべき札幌の姿」としたうえで、創造性が育まれなかった最悪のケースをグループ内で妄想し合いながら、お互いの考え方や視点を共有した。対話の内容を札幌市立大学の学生によるグラフィックコーディングで可視化し、ワークの終盤で全体の振り返りを行った。

グループワークの後の交流会では、交流のきっかけづくりとして、「これから10年後の自分」を考える自己開示ワークを行い、

経営課題解決セミナーでは、市内企業が直面している多様な経営課題等を把握し、その解決につなげていくため、財団の各拠点と連携し、企業におけるデジタル化や食産業における法改正への対応、製品開発等をテーマとするセミナーを開催し、セミナーを通じて企業の経営力強化を図ることができた。また、セミナーにおいて、関連する財団の支援メニューの紹介を行う等、財団支援施策と連動感を持たせながら取組を行った。

創業セミナーでは、各セミナーを通じて創業機運の醸成並びに創業の促進を図ることができた。

セミナー終了後は、創業予定者に対して札幌中小企業支援センターにおける創業相談対応や、入居スペースの相談対応につなげるなどフォローアップの取組を展開することができた。

マッチング前にデザイナー等と企業が互いを知り合う機会としてグループワーク・交流会を開催し、その後、改めて個別相談ができるマッチング機会を設定した。フォローアップアンケート時点で10組が継続して商談、連絡を取り合っている等、一定の成果が上がった。一方で、集客について、企業からの申込が少なくデザイナー等とのバランスが悪くなってしまった。

は約7割近くと好調な企画もある。今後も更なるニーズの把握と効果検証を踏まえたセミナーの企画を期待する。

令和6年度においては、企業とデザイナー等のマッチング支援を中心に、講座・展示・交流イベント等を組み合わせた多面的な取り組みが展開され、デザイン経営の普及促進に向けた基盤づくりが着実に進められたと評価できる。

特に、マッチング前にグループワークや交流会を設けることで、相互理解を促進する工夫がなされており、10組のマッチング

自身の考えやビジョンをイラスト化し、それらを基にグループ内での交流を図った。その後、参加者全体による交流会を行った。

- ・日時(A日程): 令和6年11月27日(水) 13:00~17:30
- ・日時(B日程): 令和6年11月28日(木) 13:00~17:30
- ・参加者数(A日程): デザイナー等8社、企業5社 計13社
- ・参加者数(B日程): デザイナー等8社、企業6社 計14社
- ・会場: Sapporo Business HUB
- ・ファシリテーター

株式会社グラグリッド 専務取締役 尾形 慎哉 氏 他1名

・協力

札幌市立大学 デザイン学部 准教授 福田 大年 氏

・グラフィックレコーディング

札幌市立大学 福田研究室 ゼミ学生5名

#### (イ)ビジネスマッチング

ビジネスマッチングでは、各回25分の設定で、デザイナーブース(ポートフォリオ等を展示)を企業がまわり商談を行った。

- ・日時(A日程): 令和6年12月11日(水) 13:00~16:30
- ・日時(B日程): 令和6年12月12日(木) 13:00~16:30
- ・参加者数(A日程): デザイナー等7社、企業5社 計12社
- ・参加者数(B日程): デザイナー等8社、企業5社 計13社
- ・会場: Sapporo Business HUB

#### (ウ)フォローアップアンケート

後日フォローアップアンケートを実施し、商談後の状況について聞き取りを行った結果10組のデザイナー等と企業がマッチングに至った。

- ・1回目: 令和6年12月20日(金)
- ・2回目: 令和7年1月24日(金)

アンケートでも、マッチングへの企業の参加が少ないことを懸念する意見があった。マッチングについては、前段のワークショップで互いに自己紹介が済んでいることからすぐに商談を行うことができ、各回の時間も25分に設定したため十分に話し合いができたことは良かった点であるが、参加企業が少なかったため、デザイナー等が得意とする分野と企業が求めるデザイン活用の範囲が限定的になってしまった。その結果、10組のマッチングができたものの、事業として目指している中長期的なビジネスパートナーとしての商談ではなく、冊子やフライヤーの作成、Web制作など表層的なデザインにとどまる商談が多かった。本イベントを通じてデザイナー等と企業の出会いを創出できた点は評価できるものの、中長期的なビジネスパートナーの関係構築という本事業の目的達成には、単発のイベント形式のみでは不十分であると考えられる。以上のことから、令和7年度においては、マッチングの機能を「さっぽろデザインブリッジ」プログラム内に組み込むとともに、他事業や当財団主催のセミナーと連携した展示会の開催等、日常的なマッチング支援手法を検討・実施する。

が成立した点は一定の成果として評価できる。しかしながら、成立したマッチングの多くが冊子・フライヤー・Web制作など、表層的なデザイン業務にとどまっており、事業が目指す中長期的なビジネスパートナーの構築には至っていない点は課題である。企業側の参加が限定的であったことも、マッチングの質や広がりにも影響を与えたと考えられ、今後は企業の参加促進に向けた広報や動機付けの工夫が求められる。

「さっぽろデザインブリッジ」では、参加者の視点に立ったカリキュラム設計により、参加者数の増加と自然発生的なマッチングが見られた点は好事例であり、継続的な取り組みとして期待したい。また、参加者のレベルや目的に応じたプログラム設計の検討は、事業の質的向上に資するものであり、今後の展開において重要な視点となる。

### イ「さっぽろデザインブリッジ」の設置

市内の中小企業者やデザイナー等を対象に、経営課題の改善や商品・サービスの付加価値向上に効果的な手法のひとつであるデザイン経営について、その導入事例や実践方法を紹介するとともに、デザイナーと企業が連携し、双方の視点からデザインワークとビジネス成約の関連性や企業の価値を考える体験型の連続講座を5回(全6回)実施した。

また、企業とデザイナー双方の学びを効果的なものにするため、企業とデザイナーが混ざり共創できる場を設計し、今後のデザイン活用の推進に繋げるための効果検証を行った。

#### (ア)「プレトークイベント&プログラム説明会」

・日時: 令和6年11月20日(水) 13:00~15:30

・会場: Sapporo Business HUB

・参加者数: 47名

・内容:

札幌市内におけるデザイン活用の先進的な取組を行う企業とデザイナーによるトークセッションに加え、本プログラムの内容に関する説明会を実施した。

#### 【トークセッション1】

テーマ:「中小企業がデザインを活用する意義」

・モリタ株式会社 代表取締役社長 近藤 篤祐 氏

・AMAYADORI 代表取締役/アートディレクター 佐藤 健一 氏  
(デザイナー側)

#### 【トークセッション2】

テーマ:「昨年度参加者に聞く! 企業×デザイナーの協業を通じた気づきとこれから」

・北海道ダイニングキッチン株式会社 代表取締役社長 佐孝 昌哉 氏

・株式会社ズック 代表取締役社長 亀山 圭一 氏

#### (イ)「さっぽろデザインブリッジ(プログラム)」

・期間: 令和6年12月から令和7年2月まで

・場所: Sapporo Business HUB

・参加者数: 45社60名(デザイナー:31社40名、企業14社20名)名

令和6年度は、令和5年度に比べテーマや目的を明確にしたうえで、開催回数を延べ12回→5回とし、デザイナーや企業がより自分事として感じやすい内容のカリキュラムを設定した。その結果、多くの参加者数を確保することができたものとする。※令和5年度:デザイナー15名、企業10社(13名)。連続講座とすることにより、参加者同士のコミュニケーションや交流が深まり、産業や業種に関わらず自然発生的にマッチングが図られたことも効果のひとつである。令和7年度は、令和6年度の取り組みを継続しつつ、連続講座の中に参加デザイナー及び企業をより知るためのカリキュラムを組み込むことで、一層の参加者間のコミュニティ強化、自然発生的なマッチングを促せるような仕組みを検討する。また、令和5年度から継続して参加している参加者にとっては、プログラムの内容がやや物足りないとの声もあり、特にデザイナー側からは、デザイン活用の理解が深まった一方で、学んだ内容を実践に移す機会が少ないとの意見が寄せられたことから、参加者のレベルや目的に応じたプログラム設計を検討するとともに、マッチングの要素を組み込むことで本プログラムの更なる機能拡充を図る。

「デザイン企画展等による情報発信」では、講座や交流会と連動した展示イベントが参加者の関心を集め、交流のきっかけとして一定の効果が見られた。関連団体との連携による市民・学生向けイベントは、地域への情報発信として意義ある取り組みだったが、今後は内容の充実や広がりに向けた工夫が求められる。

総じて、財団が有するネットワークや企画力を活かし、企業・デザイナー・市民を巻き込んだデザイン経営の普及啓発が進められている。今後は、単発イベントにとどまらず、日常的なマッチング支援や継続的な関係構築を促す仕組みづくりを進めることで、より持続可能な産業振興施策としての深化が期待される。

## ウ デザイン企画展等による情報の発信

ビジネスにおけるデザイン活用の機運を醸成するため、デザインの意味や制作過程を理解することができる展示イベントを「さっぽろデザインブリッジ」の講座の中やデザイナー等と企業の交流会にて実施した。また、デザイン関連団体や教育団体などと連携し、ビジネスパーソンや市民に向けてデザインの魅力や活用例を広く周知するためのワークショップやコンペティションイベント等を開催した。

### (ア) デザイン活用事例の紹介

- ・日時: 令和7年2月20日(木) 16:00~21:00
- ・場所: 札幌市産業振興センター(Sapporo Business HUB)
- ・参加者数: 49名

#### ・内容:

デザイナー等のポートフォリオ及び企業によるデザイン活用事例を展示し、参加者が作品や事例を通じて意見交換を行う機会を提供した。これにより、デザイン活用に対する理解の促進を図った。

(イ) デザイン関連団体及び教育団体等との連携によるイベント  
札幌メディア・アート・フォーラム(SMF)や札幌アート・ディレクターズ・クラブ(SADC)と連携し、ビジネスパーソンや市民に対し、デザインおよびクリエイティブの魅力や活用事例の普及を目的とした各種イベントを開催した。

### ①「SMFコトバワークショップ2024」

- ・日時: 令和6年10月5日(土) 9:30~19:00
- ・場所: 札幌市産業振興センター(Sapporo Business HUB)
- ・参加者数: 16名(6校より参加)
- ・講師: 池端 宏介氏(インプロバイド)、岩崎 浄美氏(ねこのて)、遠藤 誠之氏(アルファシリウス)、佐藤 秀峰氏(かもめプランニング)、佐野 弥詩氏(OG/電通東日本)、土田 菜月氏(OG/プロコム北海道)、宮本 璃子氏(OG/サイバーエージェント)
- ・内容: プロのコピーライターによる指導のもと、キャッチコピー制作の過程を学ぶ学生向けワークショップを開催した。参加者は、視点の多様性や言語化の難しさ・重要性について理解を深めた。本ワークショップでは、札幌市白石区に本社を置く池田食品株式会社が課題を提供し、「節分に豆を食べよう」と感じさせるキャッチコピーの制作に取り組んだ。
- ・主催: 札幌メディア・アート・フォーラム(SMF)

### ②「SMF TALK アート思考って結局なんなの？」

- ・日時: 令和7年3月30日(日) 14:00~16:00
- ・場所: 札幌市産業振興センター(Sapporo Business HUB)
- ・参加者数: 25名
- ・登壇者: 福田 大年氏(札幌市立大学デザイン学部デザイン研究科准教授)、端 聡氏(さっぽろアートステージ美術部門総合プロデューサー/美術家/CAI 現代芸術研究所)、福田 裕一氏(一般財団法人さっぽろ産業振興財団プロジェクト推進部クリエイティブ産業振興課課長)
- ・ファシリテーター: 杉澤 愛美氏(北海道情報大学 講師)
- ・内容: 札幌市の産業・文化・教育に携わる登壇者を招き、ビジネスにおけるアート思考の可能性や課題について意見交換を行った。また、札幌市立大学の学生がグラフィックレコーディングを行い、当日の内容をイラストや図形を用いてリアルタイムで可視化・発表した。

### ③「Sapporo ADC コンペティション & アワード2024」

- ・日程: 令和6年9月21日(土)・22日(日)
- ・場所: 札幌市産業振興センター(セミナールーム2F及・3F、体育実習室)
- ・内容: 札幌市内を中心に活動するデザイナー等による各種メディア発表作品や自主制作作品を一般公開し、優れた作品を選定する公開コンペティションを実施した。当コンペティションには、全10部門に計830件のエントリー(内訳: 通常部門822点、新人賞部門8点)があり、シリーズ構成作品を含めた総展示点数は

「デザイン企画展等による情報の発信」に関しては、デザイン活用を学ぶ講座の中で、デザインの効果的な活用事例を発表する機会として提供し、その後の交流会において、も参加デザイナー及び企業の展示会を行った。事業と連動した展示会等による情報発信とすることで、より興味関心を引くことができ、会話が弾む様子が見られたため、令和7年度も同様に、事業と連動した展示等による情報発信の方法を継続したい。また、デザイン関連団体や教育団体等との連携により、学生や市民に向けて大規模で効果的なワークショップや展示イベント等を開催することができたことは、財団が有するネットワークの強みでもあると考える。なお、令和7年4月より課のInstagramを開設しており、ホームページやSNS等のメディアを活用した情報発信についても一層力を入れたい。

2,813点となった。

・招待審査員:井上 庸子 氏(アートディレクター/グラフィックデザイナー)、原 研哉 氏(デザイナー)、原田 祐馬 氏(アートディレクター/デザイナー)、藤田 佳子 氏(アートディレクター/デザイナー)、川尻 竜一 氏(アートディレクター/グラフィックデザイナー)、菊地 和広 氏(グラフィックデザイナー)

・主催:札幌アート・ディレクターズ・クラブ(SADC)

(ウ)その他

企業等によるデザイン活用の事例や、デザイナー等との連携事例について、ウェブコンテンツとして随時発信を行い、広く周知を図った。

▼スタートアップ創出に関する業務

ア 若年層向け海外派遣事業の実施

スタートアップ創出に向けた人材・ネットワーク構築のためには、若手人材の世界各国への研修派遣などを通じて起業家マインドの醸成を図ることが重要であることから、海外カンファレンスに学生や起業家候補となる若者の参加を促す事業等を展開した。

◆ 事業実績

・学生や起業家候補となる若者の海外カンファレンスへの派遣:3名

・北大発スタートアップシンポジウムの実施支援

イ グローバル連携の促進

札幌・北海道のスタートアップがグローバルな成長を目指す機運を醸成していくため、域外からのスタートアップの誘致や投資の促進を目指し、海外から起業家・スタートアップ等を呼び込むための取組を実施した。

◆ 事業実績

・HOKKAIDO INNOVATION WEEKの運営補助(道外・国外から招へいするゲストの航空・宿泊手配等)

・HOKKAIDO INNOVATION WEEKにおける連携事業(海外スタートアップと地元企業とのマッチング)

ウ 札幌市産業振興センター入居スペースの入居企業に対する販路拡大支援

Sapporo Business VILLAGE入居企業のネットワーク構築や販路拡大、新事業展開を実現するため、展示商談会等への出展支援を実施した。

◆ 事業実績

海外派遣事業として、札幌・北海道で起業を志す学生や起業家候補3名をイタリアに派遣した。カンファレンスに参加するとともに、現地のスタートアップ企業などを訪問し、現地の起業家やベンチャーキャピタリストと交流を図ることで、起業を目指す若者のマインド醸成を図ることができた。

2回目の開催となるHOKKAIDO INNOVATION WEEKの運営補助を行い、道外・国外から招へいするゲストの渡航をサポートし、カンファレンスの成功へ寄与した。また、当該カンファレンスとの連携事業として、参加する海外スタートアップと地元企業とのマッチングの機会を設けたことで、海外スタートアップの道内進出だけでなく、地元企業がグローバルな視点で事業を拡大していくことに関心をもつきっかけをつくることができた。

様々な企業が集結する展示商談会への出展支援を行うことで、VILLAGE入居企業のネットワーク構築や新たな販路

札幌市・北海道のスタートアップエコシステムにグローバルスタンダードの視点を取り入れた点は高く評価できる。今後は本事業の実施により、具体的にどのような行動や意識の変化が生まれたのかの効果検証を踏まえ、中長期的な視点で産業振興の発展につながるような取組を期待する。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境広場さっぽろ2024【出展企業: 合同会社エゾリンク】</li> <li>・TIFFCOM ONLINE 2024【出展企業: 株式会社映画の空気】</li> <li>・ビジネスEXPO 2024(第38回 北海道 技術・ビジネス交流会)【出展企業: 株式会社Each Worth】</li> <li>・2025年アイビック食品 ビジネスマッチング展【出展企業: 株式会社北の大地のめぐみ】</li> </ul> <p>▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▼施設管理の第三者委託は市内企業に発注した。</li> <li>▼封筒の印刷は社会福祉法人に発注した。</li> <li>▼夜間・土日の受付業務にはシルバー人材センターを活用し、高齢者の雇用機会を確保した。</li> </ul>	<p>の拡大につなげることができた。</p> <p>市内企業等の活用に関しては、第三者委託は、市内中小企業者にとともに、高齢者雇用を積極的に進めるため、土日、夜間の窓口業務をシルバー人材センターへ委託したほか、福祉政策に配慮するため印刷物を社会福祉法人への発注を行った。</p>	<p>積極的な市内企業等の活用や福祉施策への配慮が見られるため、今後も継続していただきたい。</p>														
<p>3 利用者の満足度</p>																
<p>▽ 利用者アンケートの結果</p>																
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="252 936 363 1323"> <p>実施方法</p> </td> <td data-bbox="363 936 1002 1323"> <p>年2回セミナー・ルームの利用者を中心にアンケート用紙を鍵と一緒に手渡して回収したほか、館内4か所に用紙と回収箱を設置し、アンケート調査を実施した。</p> <p>【第1回目】 実施期間: 令和6年9月1日～9月30日 (30日間) 回答数 : 209件(目標数200件)</p> <p>【第2回目】 実施期間: 令和7年3月1日～3月31日 (31日間) 回答数 : 215件(目標数200件)</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 1323 363 1541"> <p>結果概要</p> </td> <td data-bbox="363 1323 1002 1541"> <p>令和6年度の第1回目の利用者アンケート結果については、総合満足度が89%、接遇に関する満足度が85%、第2回目の利用者アンケートは、総合満足度が90%、接遇に関する満足度が91%であり、仕様書の要求水準を満たすとともに目標を達成することができた。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 1541 363 2011"> <p>利用者からの意見・要望とその対応</p> </td> <td data-bbox="363 1541 1002 2011"> <p>利用者からの意見・要望等 駐車可能台数が少ない、駐車料金が低い、施設敷地内禁煙が守られていない、体育実習室の天井にカビがある等の意見があった。</p> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車場については、常に要望があがる項目であるが、同じ料金体系である近隣のコンベンションセンターを利用するよう案内をして理解を求めた。(コンベンションセンター休館時は近隣駐車場を案内)</li> <li>・施設敷地内禁煙については、禁煙ポールを随所に設置するほか案内の配布により対応。</li> <li>・体育実習室の天井については、令和7年3月にカビの除去およびカビ止め剤を塗布し対応</li> </ul> </td> </tr> </table>	<p>実施方法</p>	<p>年2回セミナー・ルームの利用者を中心にアンケート用紙を鍵と一緒に手渡して回収したほか、館内4か所に用紙と回収箱を設置し、アンケート調査を実施した。</p> <p>【第1回目】 実施期間: 令和6年9月1日～9月30日 (30日間) 回答数 : 209件(目標数200件)</p> <p>【第2回目】 実施期間: 令和7年3月1日～3月31日 (31日間) 回答数 : 215件(目標数200件)</p>	<p>結果概要</p>	<p>令和6年度の第1回目の利用者アンケート結果については、総合満足度が89%、接遇に関する満足度が85%、第2回目の利用者アンケートは、総合満足度が90%、接遇に関する満足度が91%であり、仕様書の要求水準を満たすとともに目標を達成することができた。</p>	<p>利用者からの意見・要望とその対応</p>	<p>利用者からの意見・要望等 駐車可能台数が少ない、駐車料金が低い、施設敷地内禁煙が守られていない、体育実習室の天井にカビがある等の意見があった。</p> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車場については、常に要望があがる項目であるが、同じ料金体系である近隣のコンベンションセンターを利用するよう案内をして理解を求めた。(コンベンションセンター休館時は近隣駐車場を案内)</li> <li>・施設敷地内禁煙については、禁煙ポールを随所に設置するほか案内の配布により対応。</li> <li>・体育実習室の天井については、令和7年3月にカビの除去およびカビ止め剤を塗布し対応</li> </ul>	<p>施設利用に関する満足度については、仕様書の要求水準である80%よりも高い90%を目標としている。</p> <p>令和6年度の第1回目の利用者アンケート結果については、総合満足度が89%、接遇に関する満足度が85%、第2回目の利用者アンケートは、総合満足度が90%、接遇に関する満足度が91%であり、仕様書の要求水準を満たすとともに目標を達成することができた。</p> <p>なお、利用者からの要望のうち、対応できるものについては直ちに着手し、改善を図った。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4" data-bbox="1238 936 1449 2011"> <p>施設利用者からのアンケート結果については、1回目・2回目ともに総合満足度が本市の要求水準(総合満足度80%、接遇満足度80%)を超える結果となっている。</p> <p>利用者からの要望には迅速かつ誠実対応しているものと評価できる。</p> <p>今後もアンケート結果の検証から利用者のニーズを的確に捉え、利用者目線に立った施設運営による満足度の更なる向上に努めていただきたい。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	<p>施設利用者からのアンケート結果については、1回目・2回目ともに総合満足度が本市の要求水準(総合満足度80%、接遇満足度80%)を超える結果となっている。</p> <p>利用者からの要望には迅速かつ誠実対応しているものと評価できる。</p> <p>今後もアンケート結果の検証から利用者のニーズを的確に捉え、利用者目線に立った施設運営による満足度の更なる向上に努めていただきたい。</p>			
<p>実施方法</p>	<p>年2回セミナー・ルームの利用者を中心にアンケート用紙を鍵と一緒に手渡して回収したほか、館内4か所に用紙と回収箱を設置し、アンケート調査を実施した。</p> <p>【第1回目】 実施期間: 令和6年9月1日～9月30日 (30日間) 回答数 : 209件(目標数200件)</p> <p>【第2回目】 実施期間: 令和7年3月1日～3月31日 (31日間) 回答数 : 215件(目標数200件)</p>															
<p>結果概要</p>	<p>令和6年度の第1回目の利用者アンケート結果については、総合満足度が89%、接遇に関する満足度が85%、第2回目の利用者アンケートは、総合満足度が90%、接遇に関する満足度が91%であり、仕様書の要求水準を満たすとともに目標を達成することができた。</p>															
<p>利用者からの意見・要望とその対応</p>	<p>利用者からの意見・要望等 駐車可能台数が少ない、駐車料金が低い、施設敷地内禁煙が守られていない、体育実習室の天井にカビがある等の意見があった。</p> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車場については、常に要望があがる項目であるが、同じ料金体系である近隣のコンベンションセンターを利用するよう案内をして理解を求めた。(コンベンションセンター休館時は近隣駐車場を案内)</li> <li>・施設敷地内禁煙については、禁煙ポールを随所に設置するほか案内の配布により対応。</li> <li>・体育実習室の天井については、令和7年3月にカビの除去およびカビ止め剤を塗布し対応</li> </ul>															
A	B	C	D													
<p>施設利用者からのアンケート結果については、1回目・2回目ともに総合満足度が本市の要求水準(総合満足度80%、接遇満足度80%)を超える結果となっている。</p> <p>利用者からの要望には迅速かつ誠実対応しているものと評価できる。</p> <p>今後もアンケート結果の検証から利用者のニーズを的確に捉え、利用者目線に立った施設運営による満足度の更なる向上に努めていただきたい。</p>																

## 4 収支状況

▽ 収支 (千円)				A	B	C	D
項目	R6年度計画	R6年度決算	差(決算-計画)				
収入	216,798	224,821	8,023				
指定管理業務収入	159,766	170,555	10,789				
指定管理費	56,257	65,252	8,995				
利用料金	97,280	97,714	434				
その他	6,229	7,589	1,360				
自主事業収入	57,032	54,266	▲ 2,766				
支出	222,095	222,508	413				
指定管理業務支出	165,063	168,242	3,179				
自主事業支出	57,032	54,266	▲ 2,766				
収入-支出	▲ 5,297	2,313	7,610				
利益還元			0				
法人税等			0				
純利益	▲ 5,297	2,313	7,610				

利用料金収入は、コロナ禍が落ち着いたことや、入居スペースの入居率が高水準を維持していたこともあり、計画値を達成した。支出については、老朽化に伴う修繕等の支出は多いが、全体の収支については、光熱費高騰に伴う指定管理費の見直しもあり、計画時より改善された。セミナーームの利用料収入は、コロナ禍前の95%程度まで回復はしているが、引き続き新規利用者を発掘するための営業活動を強化し、利用促進を図り、収益のさらなる向上に努めていく。

昨年度は利用料金収入が計画を下回っていたが、今年度は計画値を達成しており、適切な施設運営の結果であると評価する。また、自主事業については、予算の効率的な執行による削減とのことであり、管理能力とコスト意識の高さも伺える。引き続き適切な施設管理の元、収益向上に向けて取り組んでいきたい。

## ▽ 説明

- ▼ 指定管理業務収入について、賃金スライド条項や光熱費高騰に伴う指定管理費の見直しによる増額のほか、入居スペースの入居率も高い水準を維持していた為計画値と比較して増加した。
- ▼ 指定管理業務支出については、老朽化した設備の修繕や備品の更新が想定以上にあったことにより計画より3,179千円の増となった。
- ▼ 自主事業支出については、予算の効率的な執行のため、計画より2,766千円の減となった。

## &lt;確認項目&gt; ※評価項目ではありません。

▽ 安定経営能力の維持		適	不適
▼収入の確保及び経費節減などの効率的な予算執行等に努めた。			
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応		適	不適
▼各条例の規定に則り、全て適切に対応した。			
▼情報公開請求は無かった。			
▼協定に関する契約(第三者への委託、物品調達等)について、暴力団や暴力団関係事業者を相手に契約を行わなかった。			

## Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	次年度以降の重点取組事項
<p><b>【管理業務】</b>  施設の管理運営については、財団がエレクトロニクスセンターにおいて38年、産業振興センター18年と、各施設を長年管理運営してきた実績やノウハウを最大限に活かし、効率的かつ効果的な維持管理を行うなど、適切な管理運営を行うことができた。</p> <p>施設の利用者アンケート結果については、総合満足度として1回目が89%、2回目が90%、接遇に関する満足度についても、1回目が85%、2回目が91%との評価が得られ、90%という目標を概ね達成し、利用者の安心、安全、満足感を確保することができた。</p> <p>ハブ拠点運営業務では、企業の付加価値向上及びこれに繋がる連携への意識を高めることを目的にセミナーや勉強会、交流会などのイベントを106回実施し、延べ2,780名の集客を確保し、これらの取り組みを通じて、企業間の連携や交流を通じた付加価値向上の機会創出を図ることができた。加えて、利用者を対象としたビジネスに関する相談会を開催するなど、イベント非開催時におけるオープンスペースとしての利用促進にも努め、この結果、延べ2,460名の利用者を得ることができた。</p> <p>次に入居スペース運営業務では、専属のIMを中心に、外部専門家や財団各拠点の職員と連携し、入居企業に対する経営相談や各種助言を行った。入居企業の抱える課題やニーズを把握し、解決に向けて対応することができ、きめ細かい支援ができる体制を構築し、入居者へのヒアリングや事業内容のブラッシュアップ、豊富なネットワークを活かしたビジネスパートナーの紹介など、伴走型の支援を行った。</p> <p>財団が保有する支援メニュー(IT、クリエイティブ、ものづくり、食、販路拡大、国際展開など)や外部専門家(社会保険労務士、中小企業診断士など)を活用することはもちろんのこと、各支援団体の補助金情報の提供、訪問随行を実施し、大学との製品共同開発の支援をするなど、財団が保有するネットワークを活用し、入居企業の付加価値向上を図った。</p> <p>また、2回目となる入居企業によるピッチイベントでは、総勢80名を超える参加があり、イベントがきっかけで新たな商談につながるなど、入居企業の価値拡大につながることができた。</p> <p>このように、3年間という限られた入居期間内で、入居企業の経営基盤を確立し、企業体として自立できるよう、あらゆる機会を通じて、総合的な支援を行った。</p> <p>入居企業・卒業企業が成長することで、札幌市経済の底上げにつながり、ひいては入居スペースにおける更なる入居企業の促進につながることから、今後とも、入居企業に寄り添った支援を心掛けていく。</p>	<p><b>【管理業務】</b>  貸館業務については、目標としている稼働率80%を達成できるよう、利用者の実態調査やニーズについて調査を行い、その結果を踏まえ、DM送付やポスティング、SNSによる情報発信、広告展開等を実施するほか、ハブ拠点の利用者など企業とのタッチポイントを増やすことで、既存の利用者のみならず、新規利用者の獲得に繋げていく。加えて、利用者からの要望を踏まえ、貸出備品や設備についても適宜更新することで利便性を向上させ、施設利用者の満足度をさらに高める。</p> <p>ハブ拠点運営業務については、利用者の仕事の効率化や開かれた雰囲気や議論や交流が行われるようにするため、オープンスペースの環境整備を引き続き行うほか、利用する人が付加価値の向上及びこれに繋がる連携への意識を高めることができるよう、事業ピッチ、勉強会、相談会、交流会、イベント等を開催する。</p> <p>加えて、ハブ拠点や産業情報スクエアにおいて、企業支援に関する情報各産業振興に資する情報、入居企業や支援企業等の製品・サービス情報を発信する企画展示コーナーを設置し、利用者に情報発信を行う。</p> <p>また、入居企業の更なる活用、各産業振興に資する新たな取組、効果的なプロモーションなどに向けた様々な試行的・積極的な展開により、ハブ拠点の活性化を進める。</p> <p>入居スペース運営業務については、3年間の入居期間において、事業化の達成や経営の安定化に繋げるためには、入居者との日常的なコミュニケーションのもと、深い信頼関係を構築しながら支援することが必須であることから、支援体制の整備と支援機能の充実化を図る。支援にあたっては、IMIによる支援体制である「入居スペース支援チーム」、財団各拠点の強みを生かしながら広く市内企業の高付加価値化を目指す「財団支援チーム」の両者が連携しながら入居企業への支援を総合的かつ集中的に行うことで、入居企業を成長に導く。</p> <p>また、新たな入居企業の発掘に関して、各業界や関係団体等とのネットワークを生かし、日頃の訪問活動や中小企業支援センターでの相談対応、市内コワーキングスペース等との日頃からの情報連携などを通じて、有望な入居企業に関する情報を能動的に収集し、積極的な誘致活動を実施することで、入居率のさらなる向上を目指す。</p>
<p><b>【自主事業】</b>  自主事業である人材育成に関するセミナーにおいては、市内中小企業等の人材の育成や確保、経営課題の解決、新たな分野・テーマへのチャレンジを促すため、「人材育成セミナー(階層別研修)」「経営課題解決セミナー(テーマ別研修)」「創業セミナー」の3つの柱に基づきセミナーを企画開催する。テーマ別研修の開催にあたっては、財団の各部署との連携をより積極的に拡大させることとし、財団の強みであるIT、クリエイティブ、食などをテーマとするセミナーを実施するとともに個別相談会なども併設するなど可能な限り実施する。</p> <p>リピート企業も一定数存在する一方で、受講者のさらなる掘り起こしの余地があることから、より多くの企業に関心を持ってもらえるよう、「note」などの情報発信プラットフォームを活用するなどし、セミナーの魅力を効果的に伝える工夫や、新たなアプローチを取り入れていく。</p>	<p><b>【自主事業】</b>  人材育成に関するセミナーについては、引き続き、「人材育成セミナー(階層別研修)」「経営課題解決セミナー(テーマ別研修)」「創業セミナー」の3つの柱に基づきセミナーを企画開催する。テーマ別研修の開催にあたっては、財団の各部署との連携をより積極的に拡大させることとし、財団の強みであるIT、クリエイティブ、食などをテーマとするセミナーを実施するとともに個別相談会なども併設するなど可能な限り実施する。</p> <p>リピート企業も一定数存在する一方で、受講者のさらなる掘り起こしの余地があることから、より多くの企業に関心を持ってもらえるよう、「note」などの情報発信プラットフォームを活用するなどし、セミナーの魅力を効果的に伝える工夫や、新たなアプローチを取り入れていく。</p>

次に、デザイン経営の導入に関する業務では、経営課題の改善や商品・サービスの付加価値向上に効果的な手法のひとつであるデザイン経営を市内の企業に浸透させ、企業がデザイナーとの連携を通じてブランド構築やイノベーションの創出を目指す取組を後押しするために「デザインマッチング」「さっぽろデザインブリッジ」「デザイン企画展等による情報の発信」を実施し、デザイナーと企業が連携し、企業におけるデザイン活用による、デザイナーの活躍機会の拡大及び企業の付加価値向上に寄与することができた。

スタートアップ創出に関する業務に関しては、学生や起業家候補を海外に派遣することで、起業を志す若手のマインド醸成を図り、また、海外スタートアップと地元企業とのマッチングにより、地元企業がグローバルな視点を持つきっかけづくりをしたことで、札幌・北海道からグローバルで活躍するスタートアップを創出・育成することに寄与した。

デザイン経営の導入に関する業務に関しては、さっぽろデザインブリッジ等のデザイナーと企業がお互いを知り、経営におけるデザイン活用について共に学ぶ事業を継続しつつ、ビジネスパーソンや市民に対して、デザインの魅力や活用例を広く周知し、デザイン活用の機運を醸成するために、様々な手段で発信・周知を図ることが重要であることから、翌年度は、事業と連動した展示会の実施のほか、ウェブコンテンツやSNS等も活用しながらデザイン産業の普及啓発につなげられるような仕組みづくりを強化したい。

スタートアップ創出に関する事業を通して、札幌市内におけるスタートアップの機運は確実に高まってきている。引き続き、札幌市やSTARTUP HOKKAIDOなど関係機関と連携しながらスタートアップの創出と成長支援に取り組むほか、令和7年度は、札幌・北海道スタートアップ・エコシステムの国際化推進事業として、海外スタートアップの日本進出支援と道内スタートアップの海外進出支援にも取り組んでいく。

### 【所管局の評価】

総合評価	改善指導・指示事項
<p>財団がこれまで長年にわたって複数の施設を管理・運営し、産業振興に取り組んできた実績を活かし、市内経済の発展に向けた事業推進において、効率的かつ効果的な施設管理を行うことができています。</p> <p>また利用者アンケートや入居者との密接なコミュニケーション等により、総合満足度、接遇満足度ともに高い水準を維持しているほか、社会経済情勢の変化に伴って移ろいゆく利用者のニーズの把握にも努めており、本施設の設置目的を意識した運営であると評価する。</p> <p>専属のIMを中心に、外部専門家や財団内の多岐にわたる支援メニュー、補助金情報提供、訪問随行、大学との連携支援など、伴走支援体制も構築しており、入居企業の経営課題解決と付加価値向上に大きく貢献していると認識している。</p> <p>昨年から引き続き開催された、入居企業によるピッチイベントでは新たな商談創出へと繋がり、入居企業の価値拡大に貢献したと思われる。入居・卒業企業の成長が札幌市経済の底上げに繋がるというビジョンを掲げ、取り組みが推進されていることは、設置目的に沿った活動であると考えます。</p> <p>全体として、令和6年度における財団の取組は、本施設の管理・運営にあたって、本市が期待していた水準に十分達しているものと評価する。</p>	<p>貸館業務については、引き続き目標稼働率の達成に向けて、継続利用者の確保や新規利用者の開拓に向けた取組や広報を積極的に実施するほか、利用者のニーズや市内他施設の状況など的確に捉え、本施設のあり方についても継続的に検討を進めること。</p> <p>ハブ拠点運營業務については、引き続き最適な活用方法を模索し、オープンイノベーションの創出に向けた利用者同士の交流を促進するための環境整備や効果的な仕組みづくりの検討を続けること。</p> <p>強みである長年の経験とノウハウを、組織全体で共有し、次世代へと確実に継承していくための計画的な人材育成とナレッジマネジメントの強化に取り組むこと。</p> <p>入居企業との日常的なコミュニケーションを行い、各企業に寄り添ったきめ細やかな支援を継続すること。そのためにも、サポートを担う財団内の職員や外部専門家などの連携を一層強化し、支援体制の充実を図ること。</p> <p>セミナーやイベントなどの各取り組みを効果的に実施できるよう、戦略的な企画と実施を行うとともに、実施後は効果検証を行い、短期的な視点に留まらず、中長期的な視点も含め今後活かすこと。</p>